

有田地方最古の道具

有田川町に人々が暮らし始めたのは何年前のことなのか。この疑問に答える資料が町内の遺跡から発見されています。写真の石の道具もその一つです。この石の道具(石器)は、土生池遺跡(有田川町土生)から発見されたナイフ形石器と呼ばれるものです。大きさは5.7cmあり、翼のような特徴的な形をしています。

ナイフ形石器は約3万年前以降に日本で発達した石器です。土生池遺跡のナイフ形石器は、原料となる石の形を割り整えて、形の定まった石の剥片を連続して作り、同じような形や大きさの石器を量産する技術が発達した段階のもので、約2万年前の旧石器時代の石器と考えられています。土生池遺跡と同じような形の石器は、近畿地方や中国地方からも発見されており、人々の移動に伴って石器を作る技術が広まったようです。

また、土生池遺跡の石器の特徴として石の材質があげられます。使用されている石材は、サヌカイトと呼ばれる安山岩の一種で、大阪府と奈良県の境界に位置する二上山で産出したものです。サヌカイトは、二上山の活動でできた火山岩で、黒いガラスのような性質をもち、硬

いが割れやすく、打撃を加えると割れ口が刃のようにするどく尖ることから石器作りに最適な石材でした。そのため、近畿地方で発見される石器の多くは二上山のサヌカイトが使用されており、当時の人々は石器の原料を求めて広範囲に移動や交流を行っていたことがうかがわれます。

土生池遺跡と同じく旧石器時代の遺跡は、藤並地区遺跡(天満・土生・明王寺・水尻)、野田地区遺跡(野田)、鷹巣池遺跡(徳田)からも発見されており、地形的に安定し、狩りの獲物を探すのに便利な小高い台地に居住していたと考えられます。藤並地区遺跡では、小川の近くで石器を製作していた痕跡が発見されており、石器を作りながら水辺に集まる動物を狩猟していた当時の暮らしの様子がうかがわれます。これらの遺跡から発見された石器は、有田地方最古の道具として貴重な文化財です。

土生池遺跡の石器は、地域交流センターにおいて展示公開していますので、ご来館の際はご見学ください。



土生池遺跡出土 ナイフ形石器

広告 町収入の一部とするため有料広告を掲載しています。

●新・家族葬



有田地区唯一の
家族葬ホール

共感葬儀
SHARE
シェア有田

24時間365日対応 お気軽にお問い合わせ下さい
フリーダイヤル トモニ シンパシー
0120-106-484

●一般葬



人と人との絆を感じる
オリジナルプラン

やすらかに、との祈りを込めて
funéraire
フューネラル

●社葬



最高級のオリジナルプラン

●福祉葬



家族だけのシンプルプラン

24時間365日対応 お気軽にお問い合わせ下さい
フリーダイヤル イーヨ ヨニヨイ
0120-14-4241

● 全ての価格と葬儀のかたちに対応するオレンジライフが安心を約束します。 株式会社 オレンジライフ 〒643-0031 有田郡有田川町野田187